

中国の FTA 戦略の中心へ～ 一帯一路（シルクロード）FTA 構想

江原 規由 *Noriyoshi Ehara*

(一財) 国際貿易投資研究所 研究主幹

要約

中国の FTA 戦略において、FTA ネットワークの拡大と締結済 FTA の質的向上が緊急課題となっている。現時点では、前者は、「一帯一路」(シルクロード) の「一帯」沿線国との新たな FTA の締結に、後者は、「一路」の中国-ASEAN・FTA の昇級版の早期形成と中国国内改革(産業構造調整・国有企業改革など)の深化に集約できる。

目下中国は、シルクロード FTA を構築させ、中国経済に大きな影響を及ぼすとされる TPP に対しては「一路」で、また、TTIP に対しては「一帯」で対峙する構想にあると認められる。

中国は、自らが積極推進している RCEP や FTAAP の実現もさることながら、目下、シルクロード FTA の誕生に向けた動きを活発に展開しつつある。

最近中国は、シルクロード FTA の構築に向けた布石を着々と打っている。本稿では、中国の FTA 戦略の要点と段取りにつき紹介するとともに、今年 6 月に調印された中国と韓国、中国とオーストラリアの FTA の影響、6 月末から 7 月初めにかけて、ロシアのウファで開催された BRICS および上海協力機構の首脳会議(習近平国家主席が出席)の意義、さらに、中国-EU 首脳会議出席のため訪欧した李克強國務院総理が提起した国際産能合作の意図などから、中国の FTA 戦略の要になりつつあるシルクロード FTA 構築の可能性につき考察する。

中韓 中豪 FTA の内容と影響

今年6月、中国と韓国（以下、中韓）、中国とオーストラリア（以下、中豪）のFTA交渉が妥結した。いずれも、調印に至るまで10年前後の歳月を経ている。

中韓 FTA は中国が対外的に締結した2国間 FTA としては、過去最大規模（貿易額）の FTA である。発効すると、中韓貿易で取り扱う商品の90%以上に0関税が適用されるため、中国の GDP を0.3%、韓国の GDP を0.96%引き上げるとされる（人民網 2015年6月8日）。

中国、日本、韓国という東アジアの

3主要経済国のうち、中韓 FTA が締結されたことで、「日本は出遅れた。今後、一定の圧力を受けることが予想される。日本が日中韓 FTA 交渉に迷い続けるなら、中韓貿易はほどなく東アジアで最大の二国間貿易、地域全体の貿易の重心となり、日本の経済的影響力が低下することになる」などとみる中国人識者は少なくない。

また、中韓 FTA の後に締結された中豪 FTA は、中国とアジア太平洋地域の重要なエコノミーとの協定で、RCEP や FTAAP の推進およびアジア太平洋地域の経済統合の推進、共同发展・繁栄を実現する上で重要な意義をもつと、中国では期待されている。

表1 中韓／中豪 FTA の要点

分野など	中韓 FTA	中豪 FTA
貨物	<ul style="list-style-type: none"> ・中対韓：税目で91%（対韓輸入額の85%）が0関税。韓対中：税目で92%（対中輸入額の91%）が0関税。 ・韓国：電子製品、自動車、化学工業製などで優位 ・中国：衣料品、食品、手工芸品などで優位 	<ul style="list-style-type: none"> ・協定発効時双方は輸出貿易額の85.4%が即時0関税（最終的には、0関税となる比率でみると、税目/貿易額で、中対豪がそれぞれ、96.8%/97%、豪対中がいずれも100%）となる。
サービス投資	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス分野：発効後もネガティブリスト方式で引き続きサービス貿易交渉を行うことで合意 ・投資分野：参入前内国民待遇とネガティブ方式での投資交渉を展開することで合意 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス分野：オーストラリアは中国にネガティブリスト方式で、中国はポジティブリスト方式で双方に開放する。 ・投資分野：双方が最恵国待遇を供与。中国企業の対豪投資の審査基準を下げ、利便化する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・電子商取引、知的財産権、競争政策、政府調達、環境保護など17分野をカバー、企業・投資家は2年間の居住および労働許可を取得、中国の「一路発展戦略」と韓国の「ユーラシア・イニシアチブ」の連携に期待 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子商取引、知的財産権、競争政策など10余の分野を含む

出所：各種資料・報道より作成

表2は、中韓FTA、中豪FTA交渉の妥結で、日中韓FTA、中国が積極推進しているRCEP、米国主導のTPP、そして、昨年12月開催の北京APECの「APEC北京サミット宣言」で早期実現が謳われたFTAAPにどんな影響があるのかを、中国のFTA戦略をよく知る中国人識者の意見を中心

にまとめたものである。

表2とは別な見方をする識者も少なくないが、一般的な中国識者の見解として参考いただきたい。中国は、中韓FTA、中豪FTAの構築で、今後のFTAネットワークの拡大に重要な足場を築いたといえる。

表2 中韓／中豪FTAの他のFTAに及ぼす影響（ある中国識者の見方）

	中韓FTA	中豪FTA
日中韓FTA	<ul style="list-style-type: none"> ○中日韓自由貿易区交渉の進展において、日本に加速を迫る上で有効となり得る。 ○中日韓FTA交渉にある程度の刺激・促進作用がある。 	
RCEP	<ul style="list-style-type: none"> ○当面、直接的な影響はないが、RCEPがより高い基準・レベルの協定となる上で役立つ。 ○RCEP交渉に対する影響はほぼ皆無。 	<ul style="list-style-type: none"> ○RCEPとFTAAPの推進およびアジア太平洋地域の経済統合の推進、地域の共同の発展・繁栄を実現する上で重要な意義をもつ。
TPP	<ul style="list-style-type: none"> ○中国は、RCEP交渉の年内達成、中日韓三国交渉、「一带一路」の構築、アジアインフラ投資銀行(AIIB)など、やるべきことが山積で超多忙、今後2、3年、TPP交渉による影響などに構ってはいられない。 ○中国は、TPPに開放的な立場を取っている。 	
FTAAP	<ul style="list-style-type: none"> ○中韓FTAはFTAAPの最終的な建設の実現を推進するほか、貴重な模範となりうる。 ○中韓両国の経済発展レベルはほぼ同じで、FTAAP構成国の経済発展レベルとの格差は極めて大きいことなどから、中韓自由貿易区が模範的な役割を果たすとは考えられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○RCEPとFTAAPの推進およびアジア太平洋地域の経済統合の推進、地域の共同の発展・繁栄を実現する上で重要な意義をもつ。

出所：同上

中国が締結したFTAとその予備軍としてのシルクロードFTA

中韓FTA、中豪FTAが締結されたことにより、目下、中国が締結したFTAは14となった。

FTA締結国・地域は、中国の経済規模に比して、数的にはやや少ないとの印象を受ける。但し、交渉、研究中のものを入れると、北米を除き

地球上に万遍なく足場が築かれていることがわかる。

ここでは、筆者が表3にFTA予備軍としてリストアップした「一帯一路（シルクロード）FTA」（以下、シルクロードFTA）について紹介しておきたい。今後、本稿の主題である中国のFTA戦略の要となる可能性を秘めていると判断される。

表3 2015年6月時点のFTA関係国・地域（朋友圈）

FTA締結(14国・地域)	ASEAN、シンガポール、ニュージーランド、チリ、ペルー、コスタリカ、パキスタン、スイス、アイスランド、CEPA、ECFA、韓国、オーストラリア
FTA交渉(6国・地域)	日中韓、日本、スリランカ、海灣合作委員会、(GCC)、ノルウェー、RCEP、“ASEAN+1”昇級版
研究中(2国・地域)	南部アフリカ関税同盟、中印、コロンビア
FTA予備軍(筆者加筆)	一帯一路(シルクロード)FTA

出所：同上

習近平国家主席が強調した「シルクロード FTA」の構築

「一带一路」には、陸と海の2つのシルクロードがある。「一帯」が陸のシルクロード、「一路」が海のシルクロードとなる(図1)。アジア太平洋地域、ユーラシア、欧州、アフリカの一部含む広大な地域をカバーするとされる。人口にして、世界全体の60%強を占めている。

「一带一路」沿線には64カ国・地区が関係している。この64カ国・地区については、具体的には公表されていないが、経済規模については、公表されている。それによると、経

済規模にして、世界のほぼ30%、対外貿易にして、同25%弱を占めている(表4)。

さて、「シルクロード FTA」についてであるが、今のところ、交渉にむけた具体的な動きが始まっているわけではない。しかしながら、中国の現指導部が2国間、多国間で「シルクロード FTA 網」の構築を目指していることは明らかである。例えば、昨年(2014年)12月、習近平国家主席は、中国共産党政治局第19回全体学習で、“FTA 戦略の実施を速め、開放的経済新体制を速やかに構築せよ”と強調、次の3点を指摘している。

図1 未来の「一带一路(シルクロード)FTA」の位置図



出所：中国経済網-《経済日報》(2015年6月23日)を基に作成

表4 「一帯一路」の経済規模

「一帯一路」の経済規模 (2013年)	中国と「一帯一路」沿線64国・地区との経済関係
人口：世界全体の63% 経済規模：世界全体の29% 対外貿易：世界全体の23.9% 中国全体のほぼ1/4	貿易額：4000億ドル弱（2015年1-5月、中国の 輸出入総額の1/4強） 投資額：48.6億ドル（2015年1-5月、48カ国、 前年同期比3.7%増） 1612億ドル（2015年5月までの累計、同 中国全体の20%）

出所 同上

○FTA戦略の実施を速めることは、中国が国際ルールづくりに積極参加し、世界経済に「中国の声」を発信する重要なプラットフォームとなる。

○中国は、傍観者、追随者でなく、関与者、牽引者でなくてはならない。FTA建設を通じて、わが国の国際競争力を増強し国際ルールの制定づくりに参加する。その過程で、「中国の声」をさらに大きくし、中国要素を多くし、わが国の発展の利益を維持・保護しなくてはならない

○トップダウンで大局を見極める。周辺に足場を構え、「一帯一路」に広げ、世界の「FTAネットワーク」

に向き合い、積極的に「一帯一路」沿線国・地区とFTAを構築する。わが国とシルクロード沿線国・地域との協力をさらに緊密化し、往來をさらに盛んにし、利益をさらに共有する。

ここで注目すべきは、RCEPでも、FTAAPでもなく、「一帯一路」沿線国・地区とFTAの構築を強調している点である。中国のトップが、自国のFTA戦略、とりわけ、「シルクロードFTA」につき、これほど明快に對外発信したのは、筆者の知る限り、これが初めてである。

「シルクロードFTA」には、中国のFTA戦略の要となる可能性が秘められていることがわかる。

中国の FTA 戦略の要点

次に、中国の FTA 戦略に関する政府機関である商務部の研究院から発表された資料等から中国の FTA 戦略の要点を紹介する。概ね、以下の 5 点に総括できる。

①RCEP を積極的に推進する。

- ・世界に向けての高標準 FTA ネットワーク構築に有利。

②「一带一路」戦略を早急に実施する。

- ・「一带一路」戦略はアジアの国・地域を重点とし、交通インフラ整備を重点とする 2 国間・多国間協力の懸け橋であり、TPP による中国の対外貿易縮小の部分的歯止めとなる。

- ・「一带一路」沿線国・地区との FTA 構築においては、交渉範囲を広くする（知財、環境条項などを入れる）、モンゴル、ミャンマーなど発展水準の低い経済体には、優遇条項を入れるなどの考慮が必要である。

③FTA 水準を引上げ、同時に、国内での関連改革をうまくやる。

- ・対外貿易・投資促進において、中国は経験不足、言葉の問題、法制整備の遅れなどを改善し、国内産業構造転換・調整、国有企業改革などを大胆に進めなくてはならない。

④有効な FTA 戦略設計を強化する。

- ・多国間貿易・投資枠組みの利益を戦略的に分析・研究し、具体的な交渉戦略を早急に制定し、中国としての提案を行い影響力を発揮する。

⑤中国の TPP 参加と米国の RCEP 参加を詳細に検討する。

- ・TPP 原則の多くは、中国の今後の改革開放の深化と密接にかかわっている。

- ・中国の TPP 加入は水到渠成（条件が備われば物事は順調に運ぶ例え）の段階にあり、現時点では中米 BIT（2 国間投資協定）の締結が最重要で、中国の TPP 加入の基礎である。

上記 5 点から、中国は、「シルクロード FTA」の構築を通じて TPP に対応し、かつ、中国内での関連改革により高水準の FTA を構築する基礎

作りを行う。これにより、国際ルール作りにおける中国の発言力を強化させようとしていることが認められる。

中国のFTA戦略の段取り

中国のFTA戦略の段取りについては、商務部同様、中国のFTA戦略に関係する国家発展改革委員会の対外経済研究所が発表した資料等を整理すると、概ね、以下のとおりである。

1. 2014年～2020年

(1) 「一帯一路」戦略に関連付け、APEC、上海協力機構(SCO、後述)など地域経済協力の枠組みを拠り所とし、中韓、中豪、海灣合作委員会(海合会、Gulf Cooperation Council-GCC)とのFTA交渉を速やかに終結させ、「ACFTA 昇級版」の構築を早め、カザフスタン、トルコ、モンゴルなど「一帯一路」沿線国・地区およびアジア太平洋地域の中心的経済体とのFTA交渉の妥結を目指す。

①中韓・中豪FTA(締結済)：

発展経済体の知財、環境、労働、競争政策などホットな領域における価値理念・規則体系を十分理解することに有利。今後の米国、EU、カナダなど大型発展経済体との交渉に貴重な経験となる。RCEP、TPPの交渉参加国(潜在国)に対し、中国のFTA交渉の影響力向上に重大な意義がある。

②トルコ、カザフスタン、モンゴル、海灣合作委員会等とのFTA、ACFTA 昇級版の締結(シルクロードFTAの重要な前例)

1) トルコ：イスラム国家にあって市場経済システムが整っている国家の一つ。

韓国-トルコFTAの経験が参考になる。

2) カザフスタン・モンゴル：経済水準は低いが、緊密な経済関係にあり、FTA締結の可能性は高い。

3) 海灣合作委員会：中東の主要天然ガス輸出国、中国のエネルギー安全供給が確保される。過去何年もの交渉により、2020年までの締結可能性が高い。

4) ASEAN: 「一路」の核心的経済体、「ACFTA 昇級版」は「一路」の形成を支える主要なポイント、スリランカ、バングラデシュの「一路」における地位は、ASEAN メンバー国より低い、その重要性は同じであり、FTA 構築を考慮。

5) ロシア・インド: FTA 締結に保守的であり、この時期に FTA 戦略の重点とするのではなく、研究を深化させ、今後の FTA 交渉の準備をする。

6) ロシア、インド、トルコ、カザフスタン、モンゴル、海灣合作委員会: シルクロード沿線の重要な経済体で、国内市場が比較的大きい、これらの国との FTA 締結は「一帯」建設と海外市場開拓に重大な意義がある。

(2) カナダ、スペイン、ギリシャ、EFTA (アイスランド、ノルウェー、スイス、リヒテンシュタイン) など発展経済体との FTA 交渉を試み、EU、米国との FTA 交渉への準備とする。

①カナダ、スペイン、ギリシャ、EFTA: これらの先進経済体とまず FTA 交渉に入る。

1) EFTA: 2020 年以前に FTA 交渉締結は可能である。

2) カナダ: 中加 FTA が締結されるとしたら、中米 BIT 交渉に重要な経験となる。

3) スイス・ノルウェー: スイスとは FTA 締結済、ノルウェーとは FTA 交渉中。

②ギリシャ: EU 加盟國中経済発展水準は低い、中国との経貿協力は近年来順調で、中国と EU との FTA 構築で一つの戦略的支点となる。

③EU・米国: 中米 BIT 交渉を終結させてから、EU、米国との FTA 交渉準備を行う。

1) 欧米との FTA 構築は長期目標。

2) 経済規模は大きくないが、中国と政治関係が友好的な欧米経済体と FTA 交渉するというのが中期目標。

(3) インド、ブラジル、ロシア、南ア、メルコスール (South American

Common Market-MERCOSUR)、東・南アフリカ特惠貿易地域 (Preferential Trade Area for Eastern and Southern Africa, PTA) などの大型発展途上経済帯との FTA 交渉の準備を進める。

(4) FTAAP、日中韓 FTA、“10+3” FTA、RCEP など多角的 FTA 交渉を積極推進し、アジア太平洋経済一体化の基礎を築く。

①現在、アジア太平洋地区経済には2つのFTA路線がある。即ち、RCEP、日中韓を代表とする東アジア路線と米国が積極推進している TPP に代表されるアジア太平洋路線

○東アジア路線

1) 東アジアでまず統一 FTA を完成させた後、米国・カナダ等米州国家と共同して FTAAP を構築する。

2) APEC21 メンバー間には経済発展の格差がかなり大きく、2020 年までの FTAAP の構築の可能性は小さい。

○アジア太平洋路線

1) 先進经济体と一部小型発展途上经济体がまず高水準の FTA を締結し、新たな经济体を吸収すべきとの考えがある。

②FTAAP、日中韓 FTA、“10+3” FTA、RCEP

1) 交渉速度が遅い

2) 中国は東アジア路線を選択し、日中韓、10+3、RCEP の交渉を早期に終了させ、FTAAP の前期の研究・交渉準備に入る。

③TPP

1) TPP の発展動向、規則体系を十分研究し、状況変化を見極め TPP 加盟の時期を探るが、短期的には TPP 加入を積極化する必要はない。

2) TPP の規則体系は、先進国の利益代表から、先進国と途上国利益の両者を顧みる方向へと変わりつつある。アジア太平洋经济体が積極的に TPP に参加するようであれば、中国は果敢に TPP に参加し、中国の価値理念と規則体系を広め、アジア太平洋地域の統合を推進する。

3) 米国から参加への招待を受けた

ら、客員、オブザーバーなどの方式で参加し、時期が到来したら、全面介入すればよい。

2. 2020年～2030年

(1) インド、メルコスール、東・南アフリカ特惠貿易地域（PTA）などの大型発展途上経済帯との FTA 交渉を終結させる。

1) 中国は大型経済一体化組織（CIS、ラテンアメリカ、アフリカ地域など）の容易なところから FTA を構築し、経貿協力上の障害を軽減する。

2) BRICS（中国を除く）とアルゼンチンの 5 か国とは、主要発展途上経済体として重点的に FTA の構築を推進する。

参考：CISFTA、ロシア・ベラルーシ・カザフスタン関税同盟など一連の経済一体化組織が成立済。インド、スリランカ、パキスタンなどは、SAARC（South Asian Association for regional）の枠組みのもとで SAPTA（南アジア特惠貿易安排）を成立させている。

2020 年までには、こうした経済一

体化組織のカバーエリアが一段と拡大すると予測できる。

(2) ロシア、米国、EU との FTA 交渉の終結を目指す。

1) EU、米国との FTA 交渉の機はまだ熟していないが、努めて FTA 構築を目指し、国際通商の規則づくりに参画する。

2) 2020 年以降、中国の改革の厳しい任務が完成する。市場経済体系も整備され、高標準の FTA 構築の基礎が築かれる。米国、EU との FTA 交渉の初期的条件が満たされる。

(3) 東アジア路線とアジア太平洋路線を整合し FTAAP の構築を推進する。

中国の FTA 戦略の段取りの最終項は、FTAAP の構築にあることが読み取れるが、中国の真意は、これに、シルクロード戦略を融合させ、より広範な経済圏を構築し、これを主導していこうとしているのではないか。その一端を、今年 6 月から 7 月にかけて欧州とロシアで開催された 3 つ

の首脳会議から考察してみる。

BRICS 首脳会議、SCO 首脳会議、 中国-EU 首脳会議で何があったか

6月に中韓FTAと中豪FTAが調印されたが、同じ6月末から7月にかけて、中国のFTA戦略の行方に大きく影響すると考えられる首脳会議が欧州とロシアで開催された。即ち、李克強國務院総理が出席した第17回中国・EU首脳会議（6月29日、ブリュッセル）と習近平国家主席が出席した第7回BRICS首脳会議と第15回上海協力機構（SCO）首脳会議（7月8日～10日、ロシア・ウファ）である。なお、李克強総理は首脳会議出席に際し、ベルギー、フランス、OECD本部を訪問している。

この3つの首脳会談では、中国の存在感が目立っていた。特に、ロシア・ウファでの両首脳会議の内外での報道ぶりを見ると、“金砖与上合双轮齐动悄然重塑世界格局”（BRICSとSCOの両輪が始動した。世界の枠組みが静かに再構築されようとしている。CCTV ネット 2015年7月12日）、また、“ウファの山麓での2つの首脳会議は新た

な世界秩序を対外発信した”（『ドイツの声』が発表した報道文として紹介、出所同前）。

BRICSとSCOの首脳会議が、これほど内外から注目されたことは、これまでなかったといえる。その背景には、中国が2013年に提起した一帯一路発展戦略、そして、これと密接に関連するアジアインフラ投資銀行（AIIB 中国の提起）に対する関係各国・地区の関心の高さがうかがえる。SCO首脳会議では、シルクロード経済帯（一帯）の構築を支持することで一致、これにより、シルクロード経済帯は主要沿線国から正式に認知されたといえる。

以下に、3首脳会議での主要決定・協議事項につきまとめてみた。

1. SCO 首脳会議

- (1) インド、パキスタンを正式メンバー国（現在：オブザーバー国）とする手続開始につき、また、ベラルーシをオブザーバー国（同対話パートナー）へ、アゼルバイジャン、アルメニア、カンボジア・ネパールを新たに対話パートナーにすることを決議。

SOCの新構成

正規加盟国 SCO	中国、ロシア、カザフスタン、キルギス、タジキスタン（以上 上海ファイブ）、ウズベキスタン（2001年加盟）、 パキスタン、インド
オブザーバー	モモンゴル、インド、イラン、パキスタン（以上 2005年）、アフガニスタン（2012年）、 ベラルーシ
対話パートナー	スリランカ（以上 2009年）、トルコ（2012年）、 アゼルバイジャン、アルメニア、カンボジア、ネパール
客員	トルクメニスタン、独立国家共同体（CIS）、東南アジア諸国連合（ASEAN）

出所 関係資料などから作成

(2) 「ウファ宣言」、「2025年までのSCO発展戦略」（今後10年間の全体的計画：政治協調、経済協力等）など14の重要文書を審議・採択。

(3) 中国とロシア、シルクロード経済帯とユーロアジア経済連盟の

（Eurasian Economic UNION、ロシア、カザフスタン、ベラルーシ等）のプロジェクト建設の連携に関わる共同声明を発表。

(4) 中国、ロシア、モンゴルの3首脳会談で、「中露蒙3カ国協力発展中期ロードマップ」を承認。

シルクロード経済ベルト建設、ロシア提唱のユーラシア横断大通路、

モンゴル提唱の草原の道が緊密に連結（中露蒙経済回廊）することで、当該地域の経済協力を促し、ユーラシア大陸全体の発展を牽引するものと期待されている。

2. BRICS 首脳会議

(1) BRICS 経済パートナー戦略（今後、数年間の経済・貿易協力を中心に、BRICS 利益共同体^{注1}を構築）を採択。

(2) BRICS利益共同体を構築し、『新開発銀行』の設立準備と、緊急時外貨準備金基金の創設を急ぎ国際

的な金融協力の多角的発展を促す。

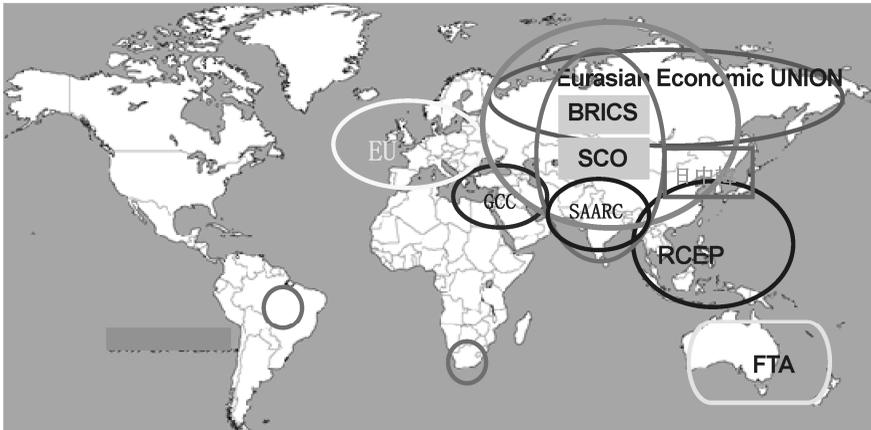
(3) 習近平国家主席、「共建伙伴关系 共创美好未来 伙伴关系」(パートナーシップを共に構築し、素晴らしい未来を共に構築しよう)をテーマに基調講演を行う。

中国とロシアとはエネルギー供給に関する協定を締結、中国の対口高

速鉄道協力では重要な進展があった。

中国はインドにインフラ建設、鉄道のアップグレード化などで協力するなど、中国の協力貢献が目立つ。なお、国際通貨基金(IMF)の統計によると、過去10年間のBRICSの世界経済成長に対する寄与率は50%を上回るとされる。

図2 シルクロードFTA構築のための受け皿



3. 第17回中国・EU首脳会議

李克強國務院総理の中国・EU首脳会議のハイライトは、「国際産能合作」(産業生産能力)を強調したことにある。7月1日、李総理は、OECD本部で基調講演しているが、その中で、「中国は自国の設備を途上国の需要、先進国の優勢と結びつけて国際生産能力協力を後押しすることを望んでいる。先進国の先進技術と組み合わせ、発展途上国で生産するほか、金融機関と融資協力を行い、質と価格面とも満足のいく、省エネ・環境保護の設備、生産能力、金融サービスを世界の市場に提供する」と語っている。

「国際産能合作」はまだあまり知られていないが、「一帯一路」、AIIBと密接に関係している点で、今後、中国の対外発展戦略の一翼を担うことになると考えられる。「国際産能合作」を一言でいうと、中国と先進国が協力・連携して第三国(先進国・発展途上国)でプロジェクト建設(航空、宇宙、高速鉄道、鉄鋼、原子力、石油・天然ガス、水力発電、金融、デジタル化、持続可能な開発、観光、

農業食品等)などを展開するということである。

李総理は、29日、ブリュッセルでの第17回中国・EU首脳会議で、「一帯一路、国際産能合作と欧州投資計画^{注2}を効果的に連結させ、コネクティビティを強化し、経済成長を推進し、第三国市場を共同開発したい」と提案している。

4. 一帯一路と国際産能合作

中国の対外発展戦略において、FTA締結^{注3}はその極めて重要な部分である。今や、2013年に提起された「一帯一路」戦略が世界的認知を得つつあり、中国のFTA戦略の中心的位置を占めようとしている。そのことは、今年7月、ロシアのウファで開催されたBRICSおよびSCO首脳会議で「一帯一路」が主要課題となっていることから明らかであろう。

冒頭で述べたが、中国は、アジア太平洋地域で、RCEPに加え、新たに「一路FTA」の構築を目指し、「一帯」では、ロシア、インドとの関係強化を通じ、一帯沿線国・地区との新たなバイ・マルチのFTAを構築し

つつヨーロッパへの自由通商路を確保しようとしているとみられる。

李克強國務院総理が、中国・EU首脳会議出席の折、行く先々で提起した「国際産能合作」は、「一帯一路」戦略の主旨であるコネクティビティ（主にインフラ建設）と密接に関わると考えられる。「国際産能合作」は、欧州向けだけのイニシアティブではないが、今後中欧の経済・産業協力、総じて、関係強化に大きく関わっているといえる。

中国-EU首脳会議、BRICS首脳会議、SCO首脳会議での中国の最大の収穫は、「一帯一路」戦略を大きくクローズアップさせたことにある。その意味で、「一帯一路」戦略は今後の

世界経済の新たな秩序形成に大きな一石を投じたといえよう。

注1：BRICS・FTAを想定していると考えられる（筆者）。

注2：中国は欧州戦略投資計画と結びつけて、インフラの共同整備で突破口を開くことを臨んでいる。EUが最近打ち出した総額3150億ユーロの欧州投資計画に参加したい。中国側は中国・EU共同投資基金の設立を積極的に検討し、欧州戦略投資基金に注力する（ブリュッセルでの中国・EUビジネスサミットでの李総理の基調講演での発言 6月29日）

注3：現在中国が締結しているFTAは14、これを2020年までに18以上にすると政府機関の研究報告がある。